

季刊

青葉の森から

第44号

2017年4月5日発行



「4月から5月上旬の森」左上から反時計回りに（春を告げるコブシの花、カタクリ、木々の芽吹き、イヌフナ、ヤマツツジ）

春の森はおおいそがし！

4月
初旬



冬芽の中で縮こまっていた花びらや葉っぱが大きく伸びをして、こずえが優しいピンク色や黄緑色に染まっています。

森もようやく春の装いに変わってきました。

4月
中旬



木々の芽吹き前は地面にまで太陽の光が届くので様々な植物が次々と花を咲かせます。その植物を利用する昆虫たちも動き出すので森の中は大忙し。

耳を澄ませばうらかなウグイスのさえずりが響き、暖かい日差しを追いかけながら散策路を進む

とひなたぼっこする生き物の姿が見られます。

5月
初旬



ゴールデンウィーク頃になると夏を日

本で過ごすため南の国からやってくる野鳥（キビタキやオオルリなど）も歌声を披露しはじめ、森はにぎやかさを増してゆきます。

6月
中旬



梅雨の時期は一雨ごとに深まる緑やカラフルなきのこ、水を含んだ苔が美しく輝き、栗やガマズミなど木の花が甘い香りを放ちます。

さあ、今日はなににであえるでしょうか。（k）



休日はパステルグリーンの森の中♪

森全体がパステルグリーンにかすみ、野鳥たちのさえずりがコダマする季節がやってきました。この頃を表す言葉として俳句では“山笑う”という季語を使うそうですが、まさに生き物が生きていることを謳歌しているようです。

この頃は木々が新芽を吹き始める時期でもあります。小さな若葉が日増しに生長していく様子に嬉しさを感じます。

新緑の色を日本の伝統色では「若草色」「若葉色」「萌黄色」などと表現しますが、どの言葉を聞いても気分が明るくなりワクワクしてしまいます。

今、挙げた色の名前はほんの一例に過ぎません。日本人は古くより自然の微妙な色合いの違いを大切にし、それらに絶妙な名前を付けてきました。グリーン系の色にも数多の名前が付けられていることを考えると、昔の人は日に日に変わる春から初夏の自然が紅葉の季節にも劣らない色彩の宝庫であることを認識していたことがわかります。



若葉色 (わかばいろ)



若葉色 (わかないろ)



若草色 (わかくさいろ)



萌黄色 (もえぎいろ)



萌木色 (もえぎいろ)



鶺鴒萌黄 (ひわもえぎ)



金茶 (ぎんちゃ)



赤朽葉 (あかくちば)



丹色 (にいろ)

一言で新緑といっても、樹木の種類によって若葉の色が異なるので、離れたところから眺めるといろいろな芽吹きの色があることに気付くでしょう。

これは葉に含まれる色素の量や質の違い、葉の表面の毛の有無などによって全体の色合いが違ってくることによります。また晴れた日と曇りの日、午前と午後の太陽光の当たり方によっても様々な色彩の違いをみることができます。例として、青葉の森を代表する樹木6種類の芽吹きをご覧ください。色合い

に違いがあることに気付いていただけたと思います。



イヌブナ



アカシデ



コナラ



マンサク



ミスキ



ヤマザクラの一種

散策路沿いで普通にみられるイヌブナやマンサクは鮮やかな緑色で太陽光に透かしてみると格別です。コナラの若葉の表面に柔らかな産毛が生えているため、陽があたると銀緑色に輝きます。

ヤマザクラの仲間の若葉は桜餅を思い出していただければわかるように赤い色をしています。これは、開いたばかりの薄い葉に含まれる光合成をする色素を紫外線から守るためアントシアニンという赤系色素を作り出しているからだそうです。左の伝統色ではどの色に当たると思われますか？

これからの季節、緑のグラデーションと樹種ごとの色合いの違いを楽しみながら散策してみてください。



そんな新緑萌える季節はカモシカの出産の季節でもあります。散策路で幼いカモシカを連れた母カモシカに出会うかも知れません。あまりの可愛さに写真を撮りたくなるでしょうが、仔を守るため母が攻撃してくることがあります。決して近づかずそっとやり過ごすのが野生動物と付き合うルールですのでよろしくをお願いします。(干)



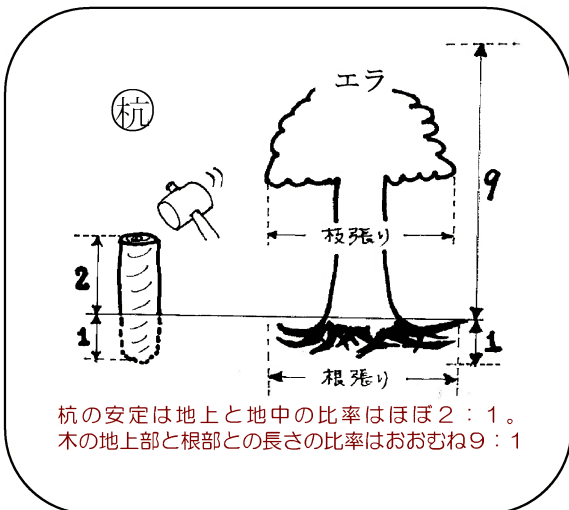
がんばる根 その2

森を歩いていると朽ちて倒れた木を見ることはありますが地中の根を見ることはほとんどありません。今回はその根について見てみます。

木の根は見えない地下で2つの働きがあります。幹を支える働き(支持根)と養分や水分を吸収する働き(細根)です。幹の支えは主に太い根によって行われ、養分や水分の吸収は太い根から分かれた細根によって行われています。細根の多くは数か月で枯死し枯死と同時に多くの新しい細根が生まれています。

この根はどのような形で地上の幹を支えているのでしょうか？.....

このような質問で多くの方は杭をイメージします。「杭を地中に打つ」と想定すると「全体の長さのほぼ1/3程度は埋まってないと安定せずにぐらつくだろう」と考えます。当然、木の根もそのくらい深いだろうと考えます。ところが実際の根の張り方は真っすぐ



崩れた斜面の根。地中真下よりも横に大きく伸ばす根

下に伸ばすのではなく地面近く浅いところで広がっています。木の地上部と根部との長さの比率はおおむね9:1になります。「このような浅い根で倒れないのか？」と疑問に思いますが、横に広く根を広げているためしっかりと支えられ倒れません。このような根の張りを「根張り」といいます。いっぽう地上部の枝の張り具合を「枝張り」とい

います。根張りの大きさと枝張りの大きさはほぼ同じであると一般に言われていますが、硬い地盤などの地質や水分状況によっては枝張りのよりも数倍大きい場合もあります。森の中で普段見えない地中では、根が複雑に絡み合っているのです。



複雑に絡み合いながら横に広がる根

根元の観察

多くの木は若い時には成長のため均等に年輪を広げて円柱状に幹が太くなります。いっぽう老木になると



若い木。均等な円柱状。ほぼ真っすぐ

必要な部分だけに支えとなる材料をつけるようになります。なぜそのようになるか。

同じ年輪幅で成長するためには材の量を年々増やさなくてはなりません。しかしそのような体力は老木にはありません。無駄な体力を使わずに効率よく木を丈夫にする必要があります。そのために木の根の負荷がいちばんかかっている所に優先して材をつけます。太い根とつながっているところが大きく生長した結果がこのような形になるのです。省エネの合理的な根元と言えます。(あ)



老木の根元。根の伸びている方向に材をつけ支えている

根のつくことば 「根回し」

根回しとは物事を行う前に関係者と事前相談了解を取り付けておくこと。もともとは園芸用語で樹木を移植する場合、移植する前1、2年前に広がった根の根本を中心に残して切り細根の発生を促すこと。移植後弱らせないための作業。



『自然の中の色探し』

春になり春から秋にかけては色とりどりの彩りに包まれるにぎやかな時季です。そんな様々な色があふれる自然の中の色に注目した楽しみ方を紹介します。

赤、白、黄、青など様々な花が咲いています。自分の好きな色の花探しをしてみましょう。



私は、星のように青く輝くオオイヌノフグリや愛らしいピンクのヒメオドリコソウ、おひさまのようなタンポポが好きです。お気に入りの花に出会えるといいですね。

自然での花の色の構成を植物の種類数でみると、白系33%、黄系28%、赤・紅系20%、青・紫系17%、その他2%という割合の記述を見つけました。実際にどの系統の色がいくつあるのか数えてみては？

森を歩くと繭や鳥の羽などの美しい落としものを見つけることもあります。何色に出会えるかな？



種名の中にも色が隠れています。色にちなんだ名前のつくものがたくさんあるのですが、どんな色が隠れているのか想像するのもおもしろいです。

○単色の「色」が付いているもの



黄：ニッコウキスゲ

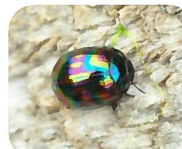


銀：ギンリョウソウ



紫：オオムラサキ

○色のイメージを例えたもの

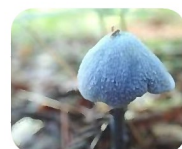


ニジゴミムシダマシ〔虹色〕



オオルリ〔瑠璃色〕

宝石の瑠璃（ラピスラズリ）



ソライロタケ〔空色〕

水色ではなく空色と命名したセンスが素敵ですよ！

また、桜色や藤色、鶯色（本当はメジロ色？）など、そのものの色から由来した色名もあります。

色に関する森の過ごし方をご紹介します。こんな森の散策のしかたも楽しいですよ！（り）

イベントのお知らせ

イベント名	日時	内容	対象・定員	申込み
◇カタクリお花見散歩	4月14日～16日 10:00～11:30、 13:30～15:00	レンジャーと一緒に歩き、カタクリが咲く春の里山の風景を楽しみます。	各回15名（先着）	4月6日（木） 午前9時から電話
◇春の絵本としぜんあそび	4月23日（日） 10:00～12:00	絵本の読み聞かせやお散歩、草花遊びを体験します。	3歳以上の未就学児と保護者15名（先着）	4月7日（金） 午前9時から電話
◇大人の森あるき「森に癒される休日」	5月7日（日） 10:00～14:30	新緑の森を歩き、やわらかな緑に包まれながら過ごし、森にたっぷり癒されましょう！	高校生以上の方15名（先着）	4月8日（土） 午前9時から電話
◇さえずりの森あるきとくろみの実で小鳥づくり	5月14日（日） 9:00～12:30	野鳥のさえずりを聞きながら散策し、クルミの実で野鳥の模型を作ります。	小学生以上15名（先着）小学生は保護者同伴	5月6日（土） 午前9時から電話
◇親と子がそれぞれ楽しむ新緑の森	5月20日（土） 10:00～15:00	大人と子どもが別々に分かれて、自然を感じる体験や森遊びをします	小学生と保護者30名（先着）	5月7日（日） 午前9時から電話

※イベントの詳細や申込み日など変更になる場合がございます。必ず毎月発行の「市政だより」をご覧ください。

季刊情報誌 「青葉の森から」 第44号 2017年4月5日発行

発行/編集：(公財)仙台市公園緑地協会 青葉の森緑地

青葉の森管理センター

開館時間/午前9時～午後4時30分 休館日/月曜・年末年始

〒980-0845 青葉区荒巻字青葉260

TEL:022-263-2101 FAX022-263-2102

地下鉄東西線「青葉山駅」から徒歩15分

http://www.sendai-park.or.jp/web/info/aobanomori/index.htm

